

Microsoft SCVMM コンソール 用 Symantec NetBackup™ ア ドインガイド

リリース 7.7

Microsoft SCVMM コンソール用 Symantec NetBackup™ アドインガイド

マニュアルバージョン: 7.7 ベータ

法的通知と登録商標

Copyright © 2015 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、Checkmark ロゴ、Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Symantec Corporation またはその関連会社の、米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Symantec Corporation からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

Symantec Corporation が提供する技術文書は Symantec Corporation の著作物であり、Symantec Corporation が保有するものです。保証の免責: 技術文書は現状有姿のままで提供され、Symantec Corporation はその正確性や使用について何ら保証いたしません。技術文書またはこれに記載される情報はお客様の責任にてご使用ください。本書には、技術的な誤りやその他不正確な点を含んでいる可能性があります。Symantec は事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアと見なされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Rights in Commercial Computer Software or Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Symantec Corporation
350 Ellis Street
Mountain View, CA 94043

<http://www.symantec.com>

目次

第 1 章	概要およびメモ	5
	システムセンターの仮想マシンマネージャのための NetBackup のアドイン について (SCVMM)	5
	SCVMM 用 NetBackup アドインに関する注意事項	6
第 2 章	NetBackup Add-in for SCVMM のインストール	7
	SCVMM 用 NetBackup アドインの必要条件	7
	NetBackup Add-in for SCVMM のインストール	8
	インストールメッセージ: アドインをインストールできません (Add-in cannot be installed)	13
	ローカライズされた環境についてのインストールメッセージ	16
	SCVMM 用 NetBackup アドインのアンインストール	18
第 3 章	仮想マシンのリカバリ	19
	NetBackup リカバリウィザードの設定	19
	Windows マスターサーバーで NetBackup Web サービスを有効に するには	20
	UNIX または Linux マスターサーバーで NetBackup Web サービス を有効にするには	23
	NetBackup Web サービスのためのポート構成	25
	SCVMM の NetBackup のアドインのための認証トークンの作成	27
	認証トークンの取り消し	27
	すべての現在の認証トークンのリスト	28
	NetBackup アドインで仮想マシンをリストアすることを承認する	29
	リカバリウィザードを使った Hyper-V 仮想マシンのリストアに関する注意事 項	33
	リカバリウィザードへのアクセス	34
	仮想マシンのリストアウィザードの画面	35
	[仮想マシンの選択 (Virtual Machine Selection)]画面	35
	[バックアップイメージの選択 (Backup Image Selection)]画面	37
	[別のイメージの選択 (Select Another Image)]画面	38
	[リストアオプション (Restore Options)]画面	39
	[設定の確認 (Review Settings)]画面	41
	リカバリジョブの状態を調べる	42

第 4 章	トラブルシューティング	45
	SCVMM 対応 NetBackup アドインのログについて	45
	SCVMM 対応 NetBackup アドインのログメッセージの表示	46
	SCVMM 対応 NetBackup アドインのログレベルの変更	48
	NetBackup アドインリカバリウィザードのリカバリ前検査で VM に関する古 い情報が返される	48

概要およびメモ

この章では以下の項目について説明しています。

- システムセンターの仮想マシンマネージャのための NetBackup のアドインについて (SCVMM)
- SCVMM 用 NetBackup アドインに関する注意事項

システムセンターの仮想マシンマネージャのための NetBackup のアドインについて (SCVMM)

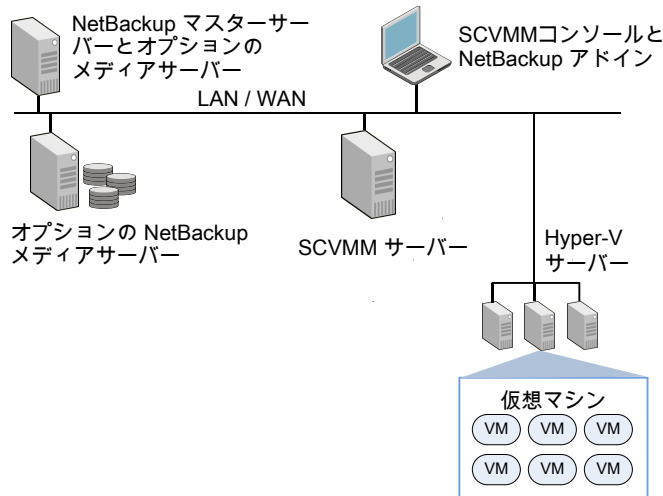
Microsoft System Center Virtual Machine Manager (SCVMM) コンソール用 NetBackup アドインを利用して、NetBackup バックアップイメージから仮想マシンをリカバリできます。

SCVMM コンソールでアドインを使うと次のことができます。

- 元の場所か代替の場所に完全な仮想マシンをリカバリします。
- アドインで開始されたリカバリジョブの進捗状況を監視します。

図 1-1 は NetBackup サーバーおよび NetBackup アドインを実装した SCVMM 環境を示しています。

図 1-1 NetBackup アドインを実装した NetBackup および SCVMM 環境



SCVMM 用 NetBackup アドインに関する注意事項

NetBackup アドインについては次の点に注意してください。

- SCVMM 用 NetBackup アドインの初回リリースでは、仮想マシンのバックアップの監視、仮想マシンバックアップからの個々のファイルのリストア、ステージング場所への仮想マシンのリストアはサポートしません。
p.33 の「[リカバリウィザードを使った Hyper-V 仮想マシンのリストアに関する注意事項](#)」を参照してください。
- NetBackup アドインを使うには、管理者ロールで SCVMM コンソールにログオンする必要があります。異なる役割でログオンすると、アドイン機能は無効になります。
- NetBackup アドインを使うすべてのユーザーは NetBackup アドインをインストールする必要があります。
p.34 の「[リカバリウィザードへのアクセス](#)」を参照してください。
- SCVMM 用の NetBackup アドインの今後のバージョンでは、サードパーティアドインに対する Microsoft 社の制限により、NetBackup アドインはその既存バージョンへのアップグレードをサポートしません。アドインの新しいリリースが利用できるようになったときに、現在のバージョンをアンインストールする必要があります。

メモ: アドインを再インストールせずに SCVMM をアップグレードできます。

NetBackup Add-in for SCVMM のインストール

この章では以下の項目について説明しています。

- [SCVMM 用 NetBackup アドインの必要条件](#)
- [NetBackup Add-in for SCVMM のインストール](#)
- [インストールメッセージ: アドインをインストールできません \(Add-in cannot be installed\)](#)
- [ローカライズされた環境についてのインストールメッセージ](#)
- [SCVMM 用 NetBackup アドインのアンインストール](#)

SCVMM 用 NetBackup アドインの必要条件

[表 2-1](#) で、SCVMM 用 NetBackup アドインの必要条件について説明します。

表 2-1 SCVMM 用 NetBackup アドインの必要条件

要件	サポート対象バージョン
SCVMM サーバー	System Center 2012 R2 Virtual Machine Manager 以降 NetBackup 7.7 リリースでは、アドインは最新の利用可能な SCVMM 2012 R2 バージョンによって検証されました (ロールアップ 6)。 サポート対象の SCVMM バージョンの最新リストについては、次の場所から利用可能な Symantec NetBackup Enterprise Server と Server 7.7 - 7.7.x OS のソフトウェア互換性リストを参照してください。 NetBackup Master Compatibility List
NetBackup	NetBackup 7.7 以降

NetBackup Add-in for SCVMM のインストール

このトピックでは、インストールファイルの取得方法と SCVMM 用 NetBackup アドインのインストール方法について説明します。

表 2-2 SCVMM の 用 NetBackup アドイン: インストールの必要条件

要件	注意事項
NetBackup アドインのインストールファイル	次の場所からインストールファイル NetBackup_7.7_Plugins.zip をダウンロードできます。 https://symantec.flexnetoperations.com
SCVMM コンソールホスト	SCVMM コンソールホストまたは別の Windows ホストにインストール用 .zip ファイルをダウンロードします。 メモ: Windows ホストは SCVMM サーバーにネットワーク接続できる必要があります。
SCVMM サーバーとそのクレデンシアル	アドインをインストールしている場合は、SCVMM コンソールで実行されます。 アドインのインストールを完了するには、次の情報が必要です。 ■ 各 SCVMM サーバーのホスト名または IP アドレス ■ 各 SCVMM サーバーのユーザー名とパスワード ■ 各 SCVMM サーバーのポート番号 (デフォルトは 443 番)
追加のユーザーアクセス	次の状況ではユーザーアクセスの追加が必要になることがあります。 ■ SCVMM コンソールホストでユーザーアカウント制御が有効になっている ■ アドインをインストールするユーザーが System Center をインストールしたユーザーではない p.13 の「インストールメッセージ: アドインをインストールできません (Add-in cannot be installed)」を参照してください。

SCVMM 用 NetBackup アドインをインストールするには

- 1 NetBackup 製品使用権利書でソフトウェアダウンロードをするためのシリアル番号を見つけます。
- 2 [FileConnect] Web ページに移動してシリアル番号を入力します。
<https://symantec.flexnetoperations.com>
- 3 [FileConnect] から、SCVMM コンソールホストに NetBackup_7.7_Plugins.zip ファイルをダウンロードします。

- 4 ダウンロードした NetBackup_7.7_Plugins.zip ファイルを解凍し、SymcNBAddIn.zip ファイルを見つけます。

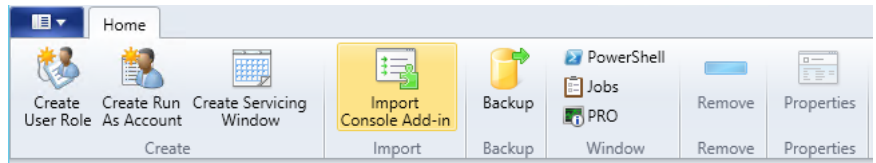
SymcNBAddIn.zip ファイルへのパスは次のとおりです。

¥NB_7.7_Plugins¥NBscvmmAddIn¥NetBackup_scvmmAddIn_Win¥SymcNBAddIn.zip

メモ: SymcNBAddIn.zip ファイルを解凍しないでください。その zip ファイルは、アドインのインストールで必要になります。

ダウンロードした NetBackup_7.7_Plugins.zip ファイルには、そのほかの NetBackup プラグインの zip ファイルも含まれています。それらのファイルは SCVMM 用の NetBackup アドインには不要です。

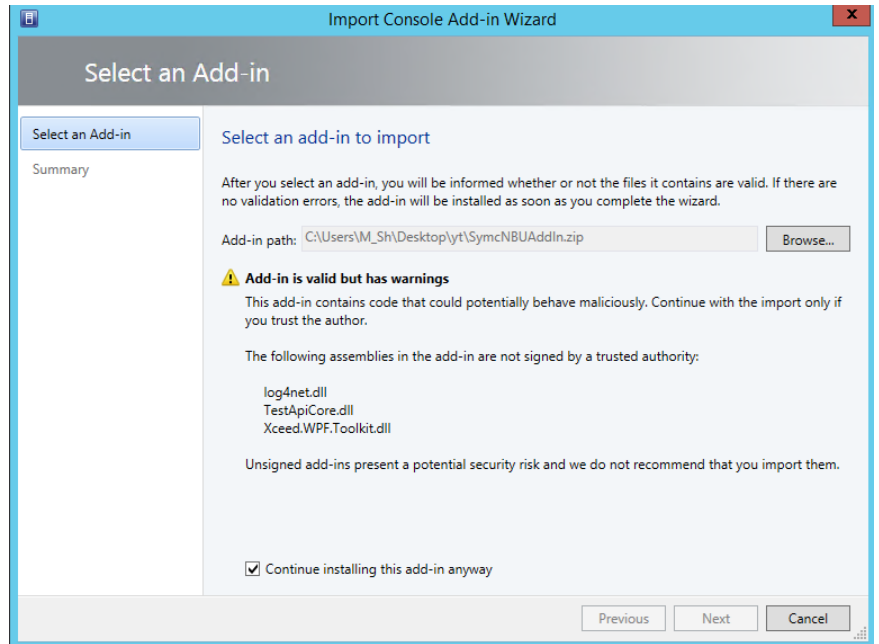
- 5 SCVMM コンソールを起動し、SCVMM サーバーに接続します。
 サーバーのホスト名または IP アドレスとそのログオンクレデンシャルが必要です。
- 6 SCVMM コンソールで、[設定 (Settings)]ワークスペースを開いて SCVMM リボンの[コンソールアドインのインポート (Import Console Add-in)]オプションをクリックします。



[コンソールアドインのインポートウィザード (Import Console Add-in Wizard)]が表示されます。

- 7 [アドインの選択 (Select an Add-in)]画面で、[参照 (Browse)]をクリックし、SymcNBUAddIn.zip ファイルを見つけます。

複数の警告が表示されます。これらの警告は無視しても問題ありません。



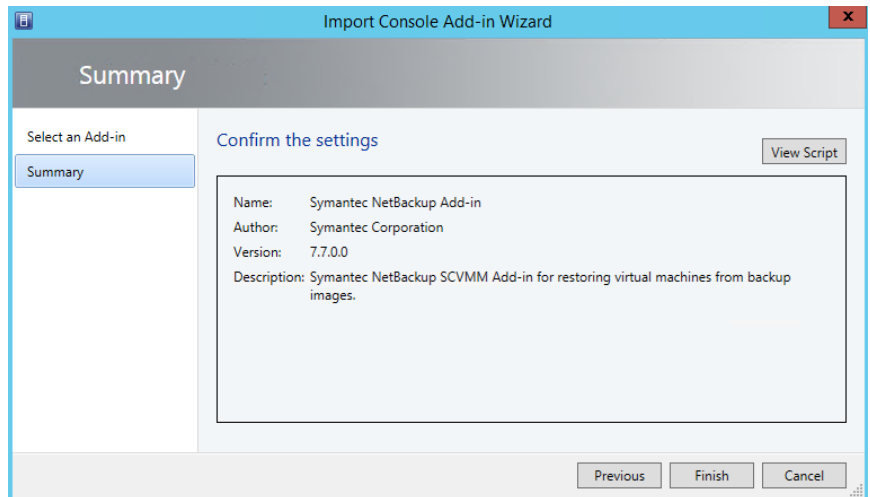
- 8 [このアドインのインストールを続行する (Continue installing this add-in anyway)]をクリックします。

[コンソールアドインのインポートウィザード (Import Console Add-in Wizard)]に「アドインをインストールできません」と表示された場合は、ユーザーアクセスの追加が必要なこともあります。

p.13 の「インストールメッセージ: アドインをインストールできません (Add-in cannot be installed)」を参照してください。

必要なユーザーアクセス権を所有している場合は、NetBackup アドインのファイルを再び参照して (ステップ 7)、このインストール手順を続行します。

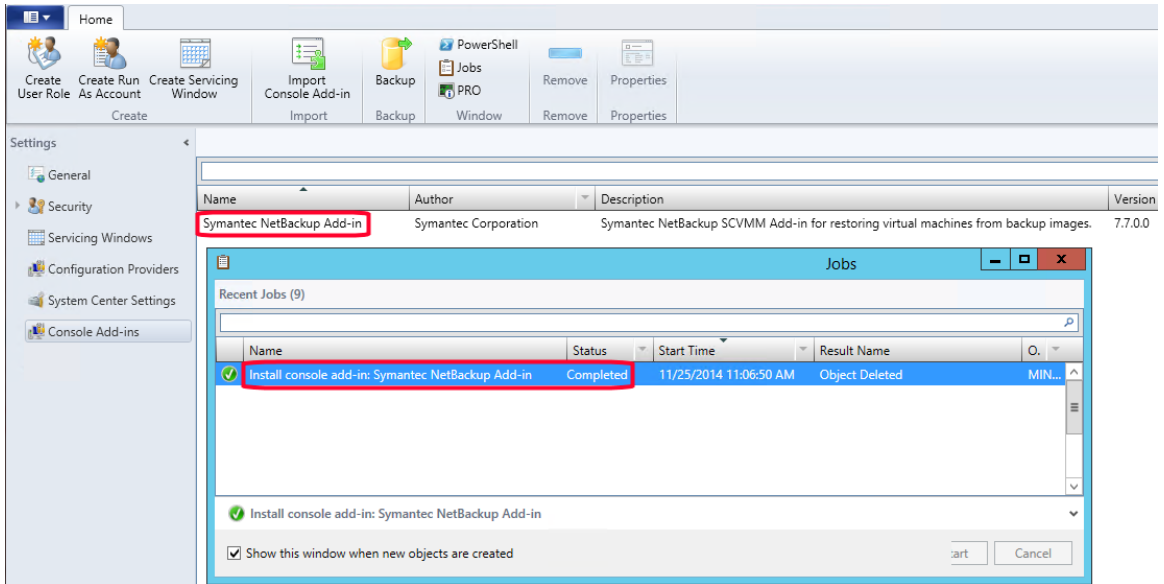
- 9 [概略 (Summary)]画面で[完了 (Finish)]をクリックします。



英語以外のシステムロケールの Windows ホストに NetBackup アドインをインストールすると、インストールが完了したときに SCVMM にメッセージが表示されることがあります。

p.16 の「ローカライズされた環境についてのインストールメッセージ」を参照してください。

インポートしたアドインが SCVMM コンソールの[ジョブ (Jobs)]ウィンドウと、[設定 (Setting)]ワークスペースの[コンソールアドイン (Console Add-ins)]に表示されます。



- 10 自分自身のクレデンシャルを使って SCVMM コンソールにログインした場合は、メッセージが表示されたら SCVMM コンソールを再起動します。

メモ: [現在の Microsoft Windows セッションの ID を使用する (Use current Microsoft Windows session identity)] オプションを選択した場合は、再起動は不要です。

メモ: NetBackup アドインを使うには、管理者ロールで SCVMM コンソールにログオンする必要があります。異なるロールで SCVMM にログオンすると、アドイン機能は無効になります。

メモ: NetBackup アドインを初めて使うときに、エンドユーザー使用許諾契約 (EULA) が表示されます。アドインを使うには、EULA に同意する必要があります。

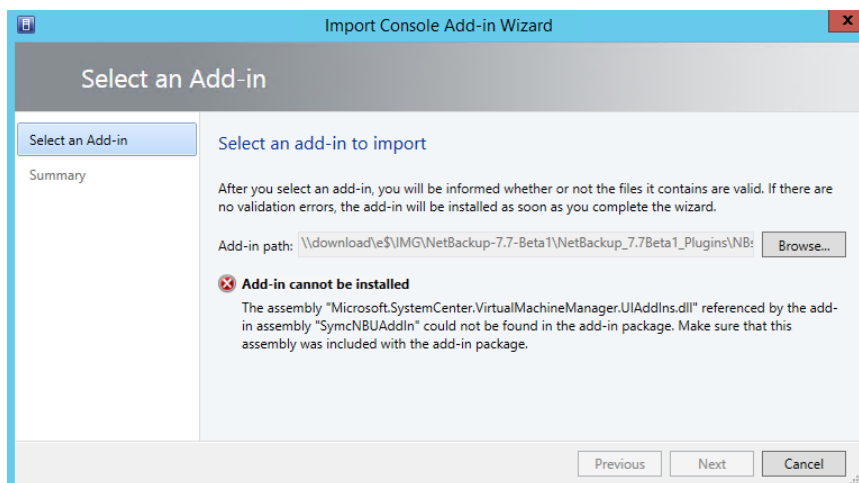
インストールメッセージ: アドインをインストールできません (Add-in cannot be installed)

ユーザー権限が足りないと、SCVMM 対応 NetBackup アドインのインストール中、「アドインをインストールできません (Add-in cannot be installed)」エラーが発生することがあります。

たとえば、このエラーは次のような状況で発生します。

- ユーザーアカウント制御が SCVMM コンソールホストで有効になっている。
- SCVMM コンソールでアドインをインストールしているユーザーが System Center をインストールしたユーザーではない。

アドインのインストール中、次のメッセージが表示されます。

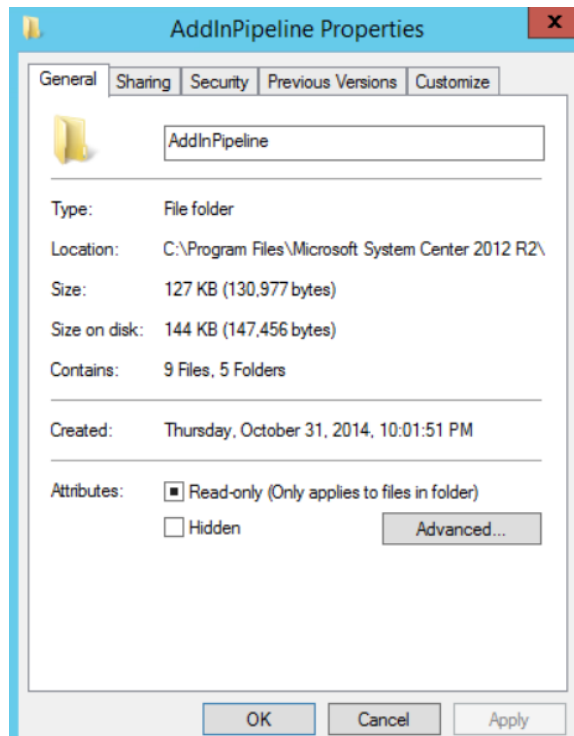


SCVMM コンソールホスト上ですべての認証済みユーザーにインストール権限を付与する方法

- 1 SCVMM コンソールホスト上で、次の場所まで移動します。

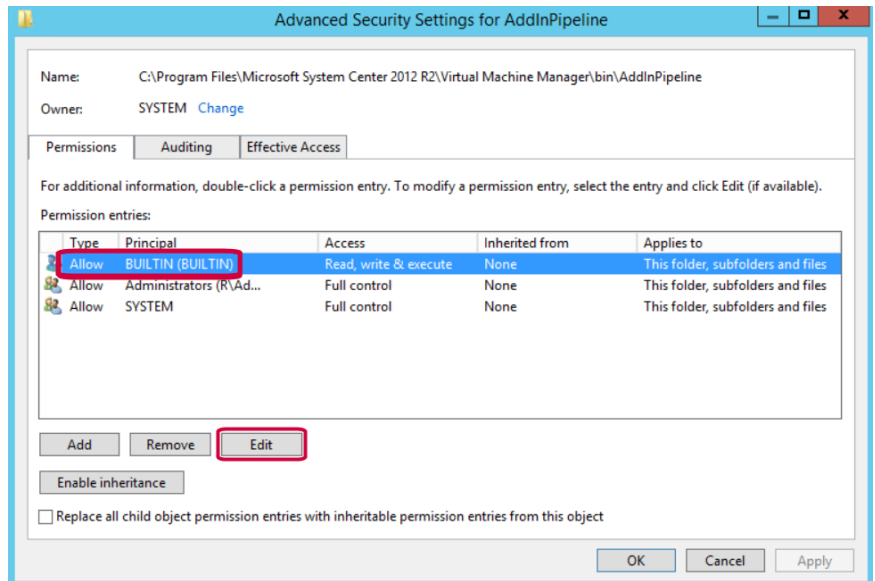
C:\Program Files\Microsoft System Center 2012\Virtual Machine Manager\bin

- 2 AddInPipeline フォルダを右クリックし、[プロパティ (Properties)] をクリックします。

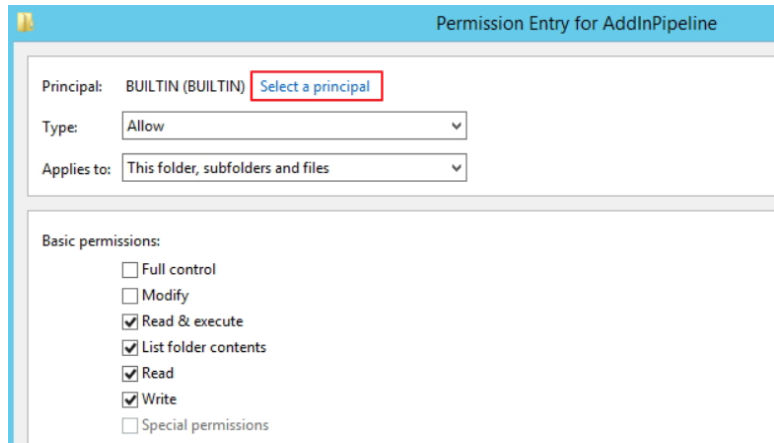


- 3 [セキュリティ (Security)] タブの [詳細 (Advanced)] をクリックし、[続行 (Continue)] をクリックします。

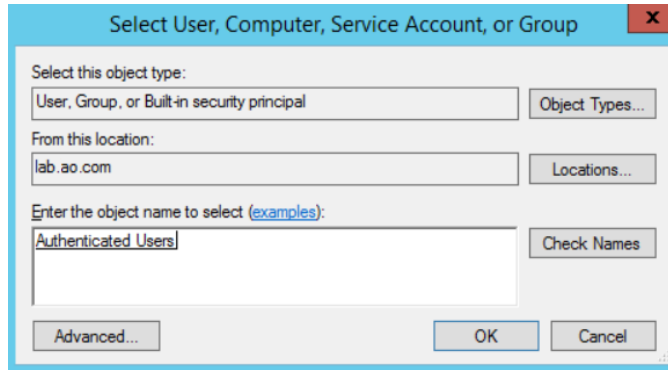
- 4 BUILTIN グループを選択し、[編集 (Edit)]をクリックします。



- 5 [プリンシパルの選択 (Select a principal)]をクリックします。



- 6 「認証済みユーザー (Authenticated Users)」と入力し、[OK]をクリックします。



- 7 各プロパティダイアログボックスを閉じるには、[OK]をクリックします。
次の Microsoft 社の記事に、この問題の詳細情報が記載されています。

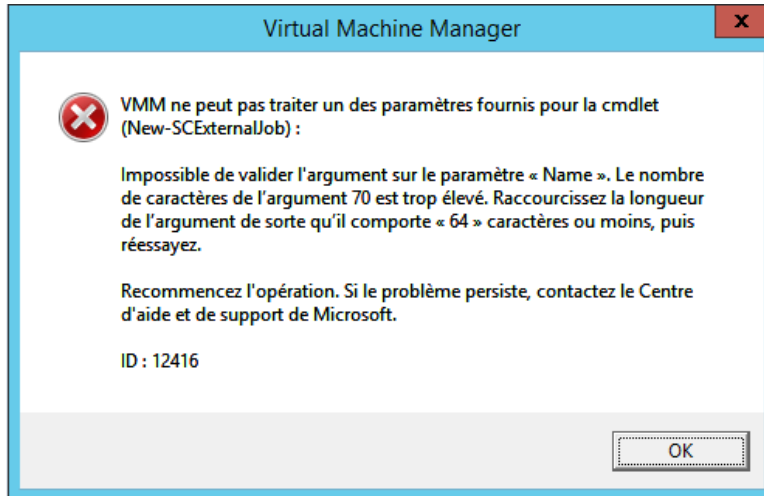
<http://support.microsoft.com/kb/2904712>

- 8 SCVMM 対応 NetBackup アドインをインストールするには:
p.8 の「NetBackup Add-in for SCVMM のインストール」を参照してください。

ローカライズされた環境についてのインストールメッセージ

英語以外のシステムロケールの Windows ホストに NetBackup アドインをインストールすると、インストールが完了したときに SCVMM にメッセージが表示されることがあります。これは、引数が 65 文字以上であるため、これを検証できないことを伝えるメッセージです。このエラーは、選択されたロケールに依存するアドイン名の長さに関する Microsoft 社の制限事項に起因します。

例: 次は、Windows がフランスのシステムロケールに設定されている場合に表示されます。

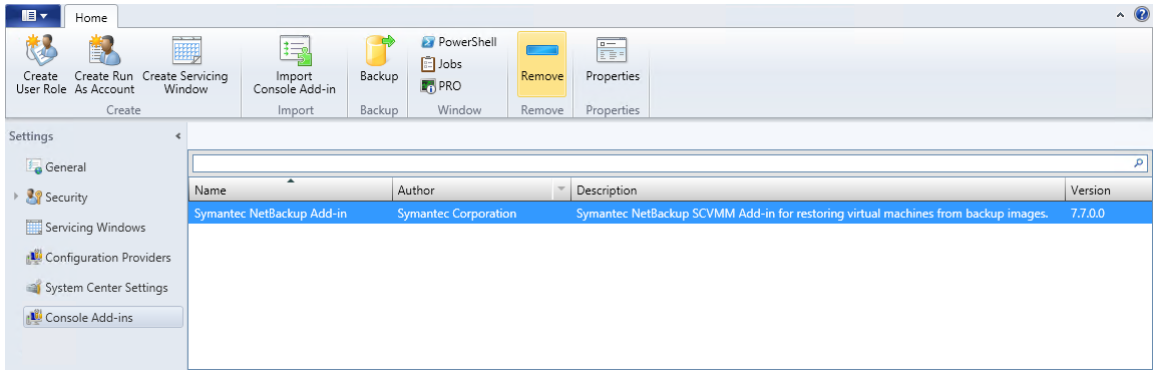


メモ: このメッセージは無視できます。アドインは正しくインストールされています。

SCVMM 用 NetBackup アドインのアンインストール

SCVMM 用 NetBackup アドインをアンインストールするには

- 1 SCVMM コンソールで、[設定 (Settings)]ワークスペースを開きます。
- 2 [コンソールアドイン (Console Add-ins)]ノードで、Symantec NetBackup アドインをクリックしてから[削除 (Remove)]をクリックします。



- 3 削除を確認するように求められたら、[はい (Yes)]をクリックします。
アンインストールされたことが SCVMM コンソールの[ジョブ (Jobs)]ウィンドウに示されます。

仮想マシンのリカバリ

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup リカバリウィザードの設定](#)
- [リカバリウィザードを使った Hyper-V 仮想マシンのリストアに関する注意事項](#)
- [リカバリウィザードへのアクセス](#)
- [仮想マシンのリストアウィザードの画面](#)
- [リカバリジョブの状態を調べる](#)

NetBackup リカバリウィザードの設定

仮想マシンをリストアするために NetBackup リカバリウィザードを使用するには、次のように設定します。

表 3-1 NetBackup リカバリウィザードの設定

手順	説明	参照項目
1	マスターサーバーで NetBackup Web サービスを有効にします。	p.20 の「 Windows マスターサーバーで NetBackup Web サービスを有効にするには 」を参照してください。 p.23 の「 UNIX または Linux マスターサーバーで NetBackup Web サービスを有効にするには 」を参照してください。
2	NetBackup Web サービスのポートを設定します。	p.25 の「 NetBackup Web サービスのためのポート構成 」を参照してください。

手順	説明	参照項目
3	認証トークンファイルを作成します。	p.27 の「SCVMM の NetBackup のアドインのための認証トークンの作成」を参照してください。
4	NetBackup アドインを承認して仮想マシンをリストアします。	p.29 の「NetBackup アドインで仮想マシンをリストアすることを承認する」を参照してください。

Windows マスターサーバーで NetBackup Web サービスを有効にするには

デフォルトでは、NetBackup Web サービスはマスターサーバーで無効です。SCVMM 用 NetBackup アドインがマスターサーバーと通信できるようにするには、NetBackup 管理者が NetBackup Web サービスを有効にする必要があります。

表 3-2 Windows マスターサーバーで NetBackup Web サービスを有効にするには

手順	説明	参照項目
1	グループ「nbwebgrp」およびユーザー「nbwebsvc」を作成します。	p.21 の「グループ nbwebgrp とユーザー nbwebsvc の作成方法」を参照してください。
2	NetBackup マスターサーバーが MSCS クラスタにある場合は、ドメインユーザーの設定を検証します。	p.21 の「NetBackup マスターサーバーが MSCS クラスタにある場合に、ドメインユーザーの設定を検証する方法」を参照してください。
3	[「サービスとしてログオン (Log On As Service)」] の権限を認可します。	p.22 の「[「サービスとしてログオン (Log On As Service)」] 権限を認可する方法」を参照してください。
4	リストアを実行するためにアドインがアクセスする必要がある各マスターサーバーで NetBackup Web サービスを設定します。	p.22 の「NetBackup Web サービスを設定するには」を参照してください。

グループ nbwebgrp とユーザー nbwebsvc の作成方法

- ◆ マスターサーバーで、nbwebgrp グループが nbwebsvc ユーザーを含んでいるかどうかチェックします。

ユーザーとグループが存在しない場合は、それらを作成してください。

nbwebsvc と nbwebgrp はローカルユーザーとローカルグループにするか、ドメインユーザーとドメイングループにすることができます。それらは **Active Directory** ユーザーおよびグループの場合があります。

メモ: ローカルユーザーとドメイングループの組み合わせや、ドメインユーザーとローカルグループの組み合わせはサポートされません。nbwebsvc と nbwebgrp の両方がローカルであるか、両方とも同じドメインの一部である必要があります。

注意: セキュリティの理由から、強いパスワードでこのユーザーを作成し、このユーザーに対するリモートログオンを無効にすることを強く推奨します。

NetBackup マスターサーバーが MSCS クラスタにある場合に、ドメインユーザーの設定を検証する方法

- 1 [Active Directory ユーザーとコンピュータ (Active Directory Users and Computers)] で、ドメインコントローラの下に [ユーザー (Users)] フォルダをクリックします。

- 2 nbwebsvc ユーザーをダブルクリックします。

- 3 [nbwebsvc プロパティ (nbwebsvc Properties)] ダイアログボックスで、[所属するグループ (Members Of)] タブをクリックします。次のレコードが含まれます。

Domain Users

nbwebgrp

デフォルトでは、nbwebgrp はプライマリグループとして設定されます。

- 4 Domain Users レコードを選択し、[プライマリグループの設定 (Set Primary Group)] をクリックします。

Domain Users がプライマリグループとして設定されており、[プライマリグループの設定 (Set Primary Group)] オプションがグレー表示になっていることを確認します。

- 5 [OK] をクリックします。

NetBackup Web 管理コンソールは、次の手順で `setupWmc.bat` を実行したときに、正しく起動するはずです。

[サービスとしてログオン (Log On As Service)] 権限を認可する方法

- 1 Windows で、[コントロールパネル] > [管理ツール] > [ローカルセキュリティポリシー]に進みます。
- 2 次に[セキュリティの設定]で、[ローカルポリシー]から[ユーザー権利の割り当て]をクリックします。
- 3 [サービスとしてログオン]を右クリックして[プロパティ]を選択します。
nbwebsvc ユーザーを追加します。ドメインユーザーに適切なドメインを含めます。
- 4 変更を保存して[サービスとしてログオンのプロパティ]のダイアログボックスを閉じます。

これで Windows Services ツールから、または setupWmc スクリプトにより WMC サービスを開始できます。クラスタ化された環境では、すべてのノードで WMC サービスを開始する必要があります。

NetBackup Web サービスを設定するには

- 1 マスターサーバーで setupWmc スクリプトを次のように実行します。
 - マスターサーバーがクラスタ化された環境にない場合。

```
install_path¥NetBackup¥wmc¥bin¥install¥setupWmc.bat -password password
```

password はローカルユーザー nbwebsvc のパスワードです。
 - マスターサーバーがクラスタ化された環境にある場合。

```
install_path¥NetBackup¥wmc¥bin¥install¥setupWmc.bat -domain domain_name -password password
```

domain_name はグループ nbwebgrp とユーザー nbwebsvc を含むドメインのドメイン名です。**password** はローカルユーザー nbwebsvc のパスワードです。

メモ: setupWmc.bat が NetBackup Web サービスの起動に失敗すると、メッセージが表示されます。次のログファイルに詳細が含まれています。

```
install_path¥NetBackup¥wmc¥webserver¥logs¥nbwmc_setupWmc.log
```

次のように入力して、このコマンドのヘルプを参照してください。

```
setupWmc.bat -help
```

- 2 NetBackup Web サービスが有効になっていることを確認するには、Web ブラウザで次の場所に移動します。

```
https://<server>:<port>/nbwebservice/application.wadl
```

ここで示された文字列については、次のとおりです。

- **server** はマスターサーバーのホスト名または IP アドレスであるか、クラスタ化された環境では仮想名または IP アドレスです。

- port はポート番号です。
NetBackup Web サービスが使用するポートを検索するには、NetBackup マスターサーバーで次のように入力します。

```
install_path¥NetBackup¥wmc¥bin¥install>configurePorts.bat  
-status
```

HTTP 401 エラーは NetBackup Web サービスが有効になっていることを示します。

UNIX または Linux マスターサーバーで NetBackup Web サービスを有効にするには

デフォルトでは、NetBackup Web サービスはマスターサーバーで無効です。SCVMM 用 NetBackup アドインがマスターサーバーと通信できるようにするには、NetBackup 管理者が NetBackup Web サービスを有効にする必要があります。

表 3-3 UNIX または Linux マスターサーバーで NetBackup Web サービスを有効にするには

手順	説明	参照項目
1	グループ「nbwebgrp」およびユーザー「nbwebsvc」を作成します。	p.24 の「 グループ nbwebgrp とユーザー nbwebsvc の作成方法 」を参照してください。
2	リストアを実行するためにアドインがアクセスする必要がある各マスターサーバーで NetBackup Web サービスを設定します。	p.24 の「 NetBackup Web サービスを設定するには 」を参照してください。

グループ nbwebgrp とユーザー nbwebsvc の作成方法

- ◆ マスターサーバーで、nbwebgrp グループが nbwebsvc ユーザーを含んでいるかどうかチェックします。

nbwebgrp グループを作成するには、次の項目を入力します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin # groupadd nbwebgrp
```

nbwebsvc ユーザーを作成するためには、次の項目を入力します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin # useradd -g nbwebgrp -c 'NetBackup Web  
Services application account' -d /usr/opensv/wmc nbwebsvc
```

表示されているようにコマンドと値を入力します。**-c** オプションはパスワードファイルコメントを指定し、**-d** は /usr/opensv/wmc としてユーザーのホームディレクトリを指定します。

メモ: シマンテック社は nbwebsvc ユーザーにデフォルトの権限 (UMASK) を付与することを推奨します。NetBackup は、NetBackup Web サービスを有効にするときに、このユーザーに適切な権限を割り当てます。

NetBackup Web サービスを設定するには

- 1 マスターサーバー上で setupWmc スクリプトを実行します。

```
/usr/opensv/wmc/bin/install/setupWmc
```

次のように入力して、このコマンドのヘルプを参照してください。

```
setupWmc -help
```

- 2 NetBackup Web サービスが有効になっていることを確認するには、Web ブラウザで次の場所に移動します。

```
https://<server>:<port>/nbwebservice/application.wadl
```

ここで示された文字列については、次のとおりです。

- server はマスターサーバーのホスト名または IP アドレスであるか、クラスタ化された環境では仮想名または IP アドレスです。
- port はポート番号です。

NetBackup Web サービスが使用するポートを検索するには、NetBackup マスターサーバーで次のように入力します。

```
/usr/opensv/wmc/bin/install/configurePorts -status
```

HTTP 401 エラーは NetBackup Web サービスが有効になっていることを示します。

NetBackup Web サービスのためのポート構成

NetBackup リカバリウィザードはマスターサーバーの NetBackup Web サービスのために Web ポートの適切な構成を必要とします。適切に設定しないと、そのマスターサーバーがバックアップを作成した仮想マシンをリストアするために SCVMM 用 NetBackup アドインを承認できません。

NetBackup インストール処理はポートの次のセットのいずれかで動作するために自動的に `configurePorts` スクリプトを実行して NetBackup Web サービスを設定します。

表 3-4 NetBackup Web サービス用に設定されるポート

ポートセット	HTTP ポート	HTTPS ポート	シャットダウンポート
最初のセット	8080	8443	8205
2 番目のセット	8181	8553	8305
3 番目のセット	8282	8663	8405

`configurePorts` スクリプトが自由なセットの 1 つ (8080、8443、8205 など) を見つけなければ、次のファイルにエラーが記録されます。

Windows の場合:

```
install_path¥NetBackup¥wmc¥webserver¥logs¥nbwmc_configurePorts.log
```

UNIX および Linux の場合:

```
/usr/opensv/wmc/webserver/logs/nbwmc_configurePorts.log
```

UNIX および Linux の場合、次のものが NetBackup システムコンソールに表示されます。

```
configurePorts: WmcPortsUpdater failed with exit status <status_code>
```

このエラーが発生するとき、マスターサーバーに次の手順を使って手動でポートを構成してください。`configurePorts` コマンドは次の場所にあります。

Windows の場合:

```
install_path¥NetBackup¥wmc¥bin¥install¥configurePorts
```

UNIX または Linux の場合:

```
/usr/opensv/wmc/bin/install/configurePorts
```

NetBackup Web サービスのためにポートを構成するには

- 1 マスターサーバーで、次を入力して現在構成されたポートをリストします。

```
configurePorts -status
```

出力例は次のとおりです。

```
Current Http Port: 8080
Current Https Port: 8443
Current Shutdown Port: 8205
```

- 2 次の形式の `configurePorts` コマンドを使ってポートを再構成してください。

```
configurePorts -httpPort http_port | -httpsPort https_port |
-shutdownPort shutdown_port
```

一度に **1** つ、**2** つ、または **3** つのポートを構成できます。たとえば、HTTP ポートを **8081**、HTTPS ポートを **8553** に構成するには次を実行します。

```
configurePorts -httpPort 8081 -httpsPort 8553
```

出力例は次のとおりです。

```
Old Http Port: 8080
New Http Port: 8081
Old Https Port: 8443
New Https Port: 8553
```

必要に応じたコマンドを使って HTTP、HTTPS、シャットダウンの **1** セットのポートを構成します。ポートセットのリストについては、表 3-4 を参照してください。

- 3 マスターサーバーがクラスタ化された環境にある場合、次のように指定します。
 - ポートの同じセットがすべてのクラスタノードで自由であることを確かめてください。各ノードで手順1を行います。
 - 各ノードのポートを必要に応じて再構成してください。手順2を行ってください。
 - すべてのノードで使われるポートを無視するには、次を入力します。

```
configurePorts -overrideCluster true
```

このコマンドは共有ディスクの次のファイルを更新します。

Windows の場合:

```
install_path/NetBackup/var/global/wsl/portfile
```

UNIX または Linux の場合:

```
/usr/openv/netbackup/var/global/wsl/portfile
```

Web サービス用の **NetBackup** インストーラはクラスタモードのインストール中にこのファイルを使います。

SCVMM の NetBackup のアドインのための認証トークンの作成

アドインに VM のリストアを許可するには、NetBackup マスターサーバーで認証トークンを生成する必要があります。

NetBackup マスターサーバーで認証トークンを作成するには

- 1 マスターサーバー上で次を入力します。

Windows の場合

```
install_path¥NetBackup¥wmc¥bin¥install¥manageClientCerts.bat  
-create SCVMM_console_host
```

UNIX および Linux の場合

```
/usr/openv/wmc/bin/install/manageClientCerts -create  
SCVMM_console_host
```

この **SCVMM_console_host** はアドインをインストールしているホストの完全修飾ドメイン名です。manageClientCerts コマンドは認証トークンを含んでいる圧縮ファイルの場所を返します。

メモ: Windows のファイルとディレクトリの命名規則に違反する文字 (アスタリスク(*) など) を使って認証トークンファイルを作成したり、名前変更を行わないでください。トークンファイルの名前が Windows の予約文字を含む場合は、アドインがマスターサーバーのバックアップから VM をリストアするための認証を受けることができません。Windows の命名規則について詳しくは、次の [Microsoft](#) の記事を参照してください。「[Naming Files, Paths, and Namespaces](#)」

- 2 SCVMM サーバー管理者に圧縮認証トークンファイルを提供します。

注意: 圧縮ファイルの共有や送信には、必ず安全な方法を使用してください。マスターサーバートークンを使うと、仮想マシンをリストアするためにプラグインを認証できます。

p.29 の「[NetBackup アドインで仮想マシンをリストアすることを承認する](#)」を参照してください。

認証トークンの取り消し

次のように、マスターサーバーの認証トークンを削除または取り消すことができます。

認証トークンを取り消すには

- 1 マスターサーバー上で次を入力します。

Windows の場合

```
install_path¥NetBackup¥wmc¥bin¥install¥manageClientCerts.bat  
-delete SCVMM_console_host
```

UNIX および Linux の場合

```
/usr/opensv/wmc/bin/install/manageClientCerts -delete  
SCVMM_console_host
```

この **SCVMM_console_host** はアドインをインストールしているホストの完全修飾ドメイン名です。

-delete オプションにより、マスターサーバーから認証トークンとその圧縮ファイルを削除します。このマスターサーバーが作成したバックアップから仮想マシンをリストアする権限がアドインからなくなります。

- 2 このマスターサーバーをリストアするアドインを再認証するには、新しいトークンを作成して必要に応じて SCVMM コンソールでマスターサーバーを再追加します。

p.27 の「[SCVMM の NetBackup のアドインのための認証トークンの作成](#)」を参照してください。

p.29 の「[NetBackup アドインで仮想マシンをリストアすることを承認する](#)」を参照してください。

すべての現在の認証トークンのリスト

現在使用中のすべてのマスターサーバーの認証トークンをリストできます。

すべての現在の認証トークンをリストするには

- ◆ マスターサーバー上で次を入力します。

Windows の場合

```
install_path¥NetBackup¥wmc¥bin¥install¥manageClientCerts.bat -list
```

UNIX および Linux の場合

```
/usr/opensv/wmc/bin/install/manageClientCerts -list
```

次に出力例を示します。

Client	Expiry Date
SCVMM_console_host_1	Thu Feb 06 16:16:51 GMT+05:30 2016
SCVMM_console_host_2	Fri Feb 07 11:22:53 GMT+05:30 2016

このコマンドはトークンを作成した SCVMM コンソールホストとその有効期限を表示します。この情報は、証明書が期限切れになったときに SCVMM コンソールホストとマスターサーバー間で起きる通信の問題の診断に役立ちます。

- 書式付きで出力する場合は、コマンドプロンプトまたはシェルの画面サイズを 100 単位以上に設定します。
- 40 文字を超えるサーバー名は切り捨てられ、先頭から 40 文字を超える文字が "..." に置換されます。

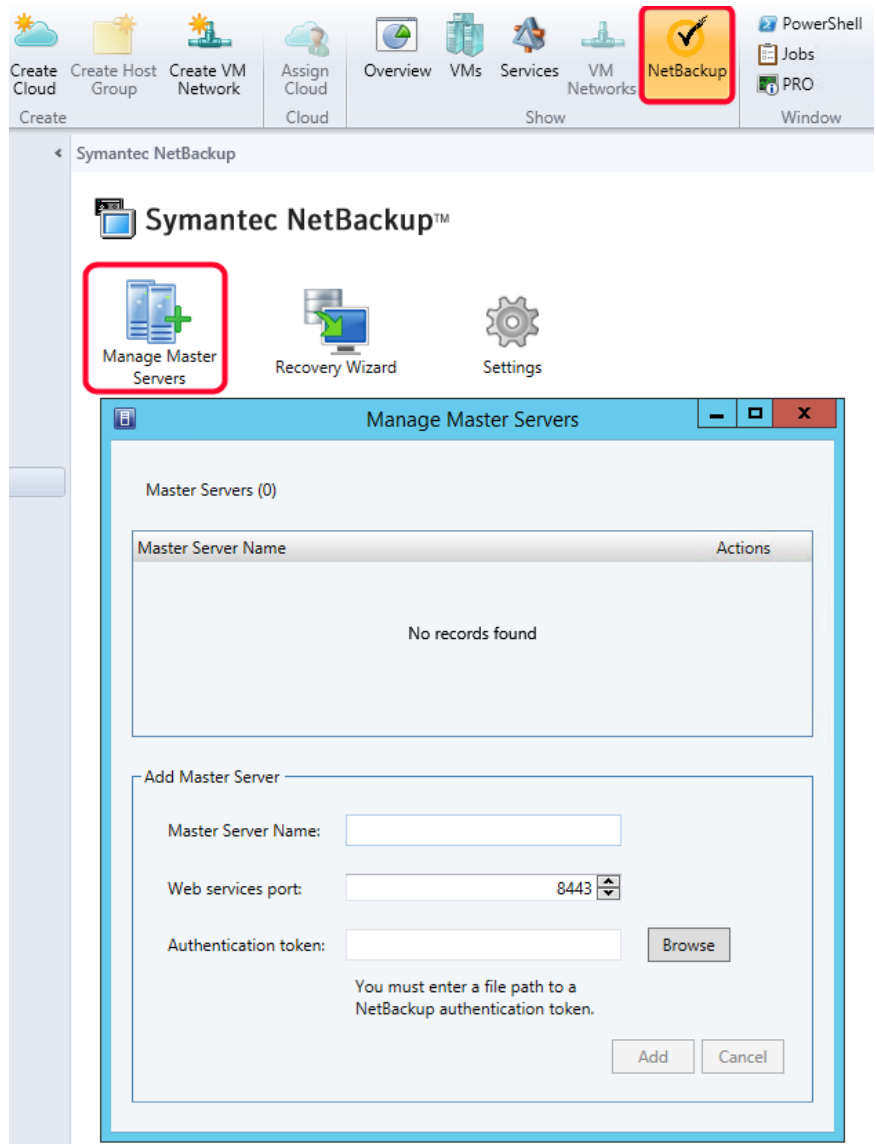
NetBackup アドインで仮想マシンをリストアすることを承認する

NetBackup マスターサーバーは、仮想マシンのバックアップを開始、制御します。仮想マシンのリストアにアドインを使うには、マスターサーバー認証トークンを NetBackup 管理者から入手する必要があります。トークンを入手したら、アドインを承認することでマスターサーバーによってバックアップされた仮想マシンをリストアできます。

アドインで仮想マシンをリストアすることを承認 (または、承認を編集、削除) するには

- 1 NetBackup 管理者に認証トークンファイルを提供するように依頼します。
p.27 の「[SCVMM の NetBackup のアドインのための認証トークンの作成](#)」を参照してください。
- 2 SCVMM コンソールを起動するコンピュータまたはノートパソコンに認証トークンファイルをコピーします。
場所を書き留め ておきます。
- 3 SCVMM コンソールのリボンで、[NetBackup] オプションをクリックします。

- 4 [マスターサーバーの管理 (Manage Master Servers)]をクリックします。

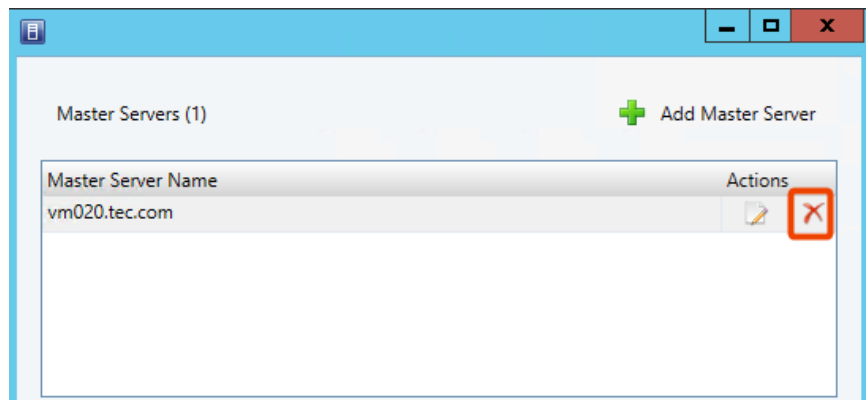


- 5 [マスターサーバーの追加 (Add Master Server)]で次の項目を入力して NetBackup マスターサーバーと認証トークンを指定します。

- マスターサーバーの追加 (Add Master Server)
- Master Server Name
マスターサーバーの完全修飾ドメイン名を入力します。
 - Web サービスポート (Web services port)
NetBackupの管理者がポートを変更していない場合は、デフォルト (8443) を受け入れてください。ポートが変更されている場合は、正しいポート番号を管理者に問い合わせてください。
 - 認証トークン (Authentication token)
[参照 (Browse)] をクリックし、NetBackup 管理者が提供した認証トークンファイルを選択します。
[追加 (Add)] をクリックします。アドインが通信できるマスターサーバーのリストにサーバーが追加されます。

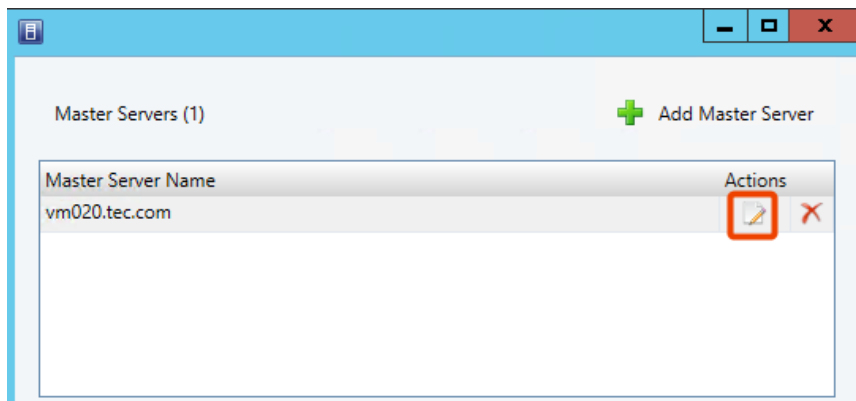
- 6 SCVMM コンソールがマスターサーバーと通信できることを検証するには、[状態の確認 (Check Status)] をクリックします。

正常に通信している場合は、[接続の状態 (Connection Status)] フィールドに [接続済み (Connected)] と表示されます。
- 7 他のマスターサーバーとその認証トークンを追加するには、右上にある [マスターサーバーの追加 (Add Master Server)] をクリックしてステップ 5 と 6 を繰り返します。
- 8 承認を削除するには、マスターサーバー名の隣にある削除アイコンをクリックします。

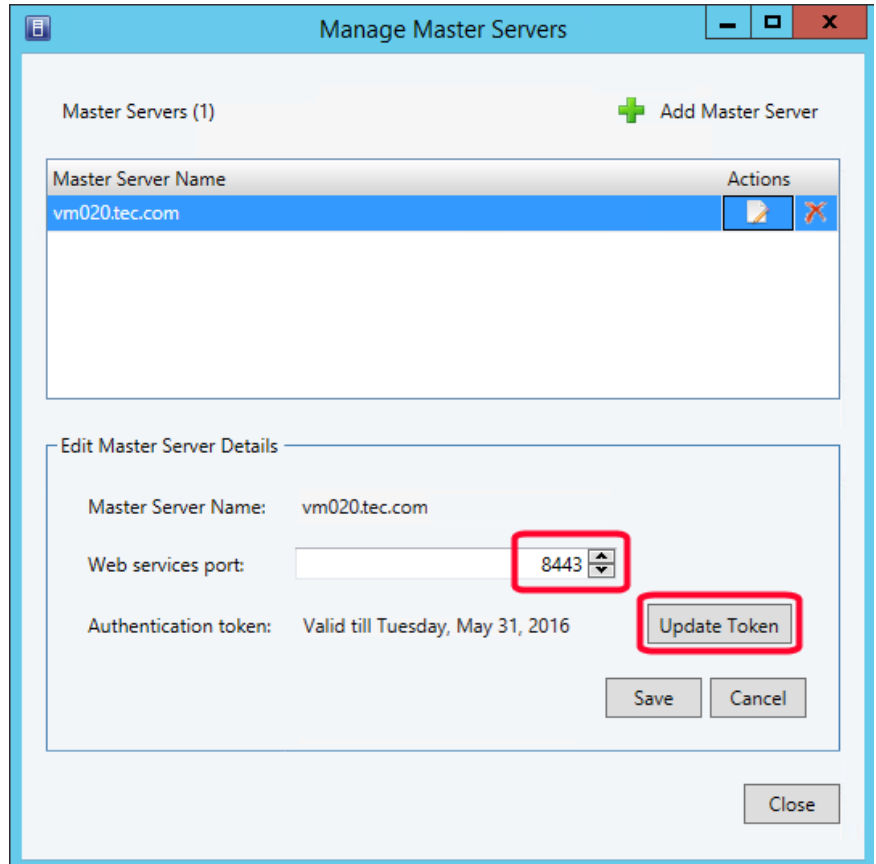


承認を削除すると、アドインはマスターサーバーが実行したバックアップからリストアできません。

- 9 承認を編集するには、マスターサーバー名の反対側にある編集アイコンをクリックします。



異なる Web サービスポートを入力することも、[トークンの更新 (Update Token)]をクリックして異なる認証トークンを選択することもできます。



- 10 [保存 (Save)]をクリックします。
- 11 [閉じる (Close)]をクリックします。

リカバリウィザードを使った Hyper-V 仮想マシンのリストアに関する注意事項

NetBackup イメージから仮想マシンをリストアするには、SCVMM コンソールの Symantec NetBackup [リカバリウィザード (Recovery Wizard)]を使います。

NetBackup アドインリカバリウィザードについては、次の点に注意してください。

- リカバリウィザードを使用する前提条件:
p.19 の「[NetBackup リカバリウィザードの設定](#)」を参照してください。

- **NetBackup** リカバリウィザードは仮想マシン全体をリストアするもので、個別ファイルのリストアには使えません。仮想マシンのバックアップから個々のファイルをリストアするには、**NetBackup** のバックアップ、アーカイブ、リストアインターフェースを使います。
『**NetBackup for Hyper-V 管理者ガイド**』で個々のファイルのリストアに関するトピックを参照してください。
- **NetBackup** リカバリウィザードはステージング場所に対するリストアをサポートしません。ステージング場所に仮想マシンをリストアするには、**NetBackup** のバックアップ、アーカイブ、リストアインターフェースを使います。
- **Hyper-V** マネージャを使って個々の **Hyper-V** ホストまたはクラスタに対して行った変更は、**SCVMM** コンソールに反映されるまで最大で **24** 時間かかる場合があります。それまでは、**NetBackup** アドインリカバリウィザードには最新の仮想マシン構成状態が反映されていません。その場合、リカバリウィザードの **VM** の場所に関連するリカバリ前チェックは、**SCVMM** の最新データに基づいていない場合があります。リカバリウィザードで異なる選択を実行しなければならない場合があります。
[p.48 の「NetBackup アドインリカバリウィザードのリカバリ前検査で VM に関する古い情報が返される」](#)を参照してください。

リカバリウィザードへのアクセス

このトピックで説明しているように、**SCVMM** コンソールで **NetBackup** アドインからリカバリウィザードを起動できます。

メモ: アドインにアクセスするには、自分でアドインをインストールする必要があります。アドインをインストールしていない場合は、[**NetBackup**]オプションが **SCVMM** リボンに表示されません。

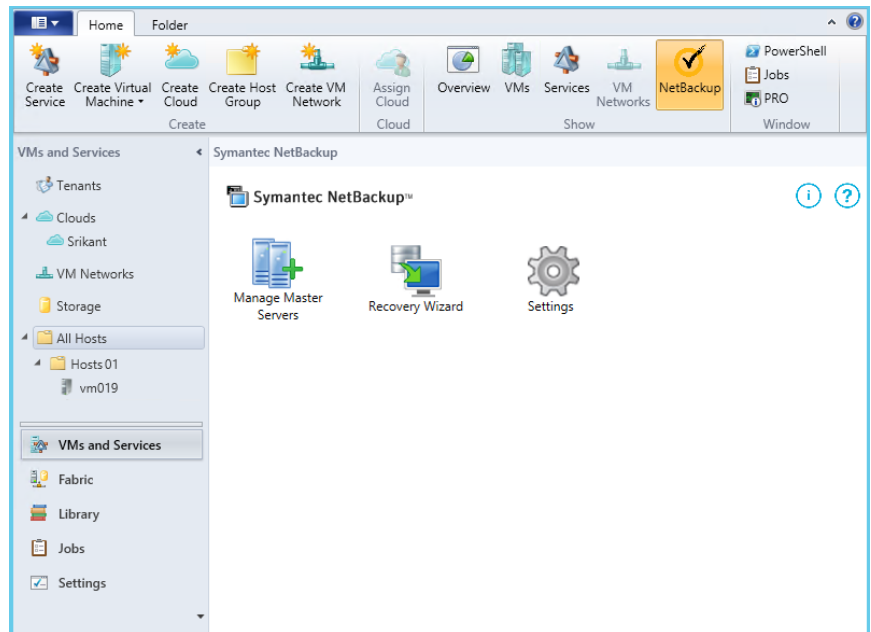
リカバリウィザードにアクセスするには

- 1 **SCVMM** コンソールで、[**VM とサービス (VMs and Services)**]ワークスペースを開きます。
- 2 [すべてのホスト (**All Hosts**)]をクリックします。

- 3 SCVMM リボンで、[NetBackup] オプションをクリックします。

NetBackup アドインを初めて使うときに、エンドユーザー使用許諾契約 (EULA) が表示されます。アドインを使うには、EULA に同意する必要があります。

Symantec NetBackup アドインのコンポーネントが表示されます。



- 4 [リカバリウィザード (Recovery Wizard)] をクリックします。

[仮想マシンの選択 (Virtual Machine Selection)] 画面が表示されます。

p.35 の「[\[仮想マシンの選択 \(Virtual Machine Selection\)\] 画面](#)」を参照してください。

仮想マシンのリストアウィザードの画面

NetBackup アドインで次の画面を使って Hyper-V 仮想マシンをリストアします。

[仮想マシンの選択 (Virtual Machine Selection)] 画面

この画面で、リストアする仮想マシンを指定します。

図 3-1 SCVMM の NetBackup リカバリウィザードの [仮想マシンの選択 (Virtual Machine Selection)] 画面

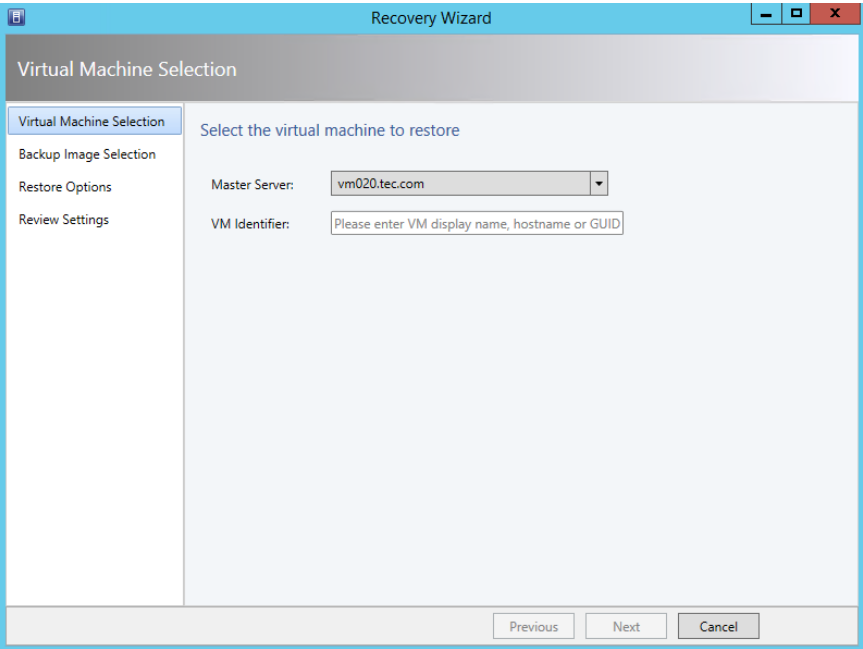


表 3-5 NetBackup リカバリウィザードの [仮想マシンの選択 (Virtual Machine Selection)] 画面のフィールド

フィールド	説明
マスターサーバー (Master Server)	ドロップダウンリストを使用して、バックアップを作成したマスターサーバーを選択します。 マスターサーバーがドロップダウンリストにない場合は、マスターサーバーリストにサーバーを追加する必要があります。 p.29 の「NetBackup アドインで仮想マシンをリストアすることを承認する」を参照してください。
VM 識別子 (VM Identifier)	リストアする仮想マシンの表示名、ホスト名、GUID のいずれかを入力します。 メモ: このフィールドでは大文字と小文字が区別されます。
次へ (Next)	操作が完了したら、[次へ (Next)]をクリックしてウィザードの次の画面に移動します。

[バックアップイメージの選択 (Backup Image Selection)] 画面

この画面で仮想マシンをリストアするために使うバックアップイメージを選択します。

図 3-2 SCVMM の NetBackup リカバリウィザードの [バックアップイメージの選択 (Backup Image Selection)] 画面

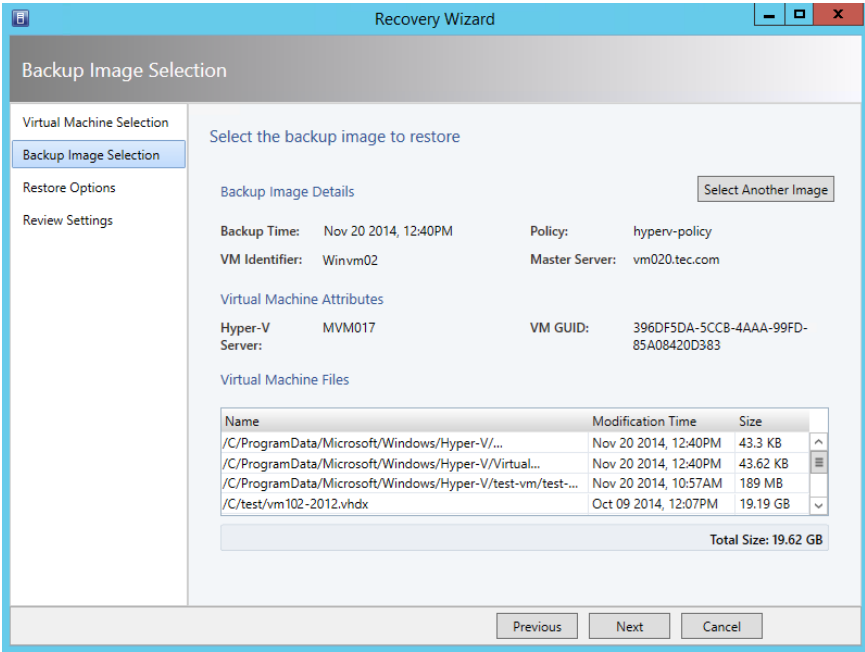


表 3-6 [バックアップイメージの選択 (Backup Image Selection)] 画面のフィールド

フィールド	説明
バックアップイメージの属性 (Backup Image Attributes)	仮想マシンのバックアップイメージに関する情報を表示します。 デフォルトでは、最近のバックアップイメージが表示されます。
別のイメージの選択 (Select Another Image)	別のバックアップイメージを選択する場合は、このオプションをクリックします。「[別のイメージの選択 (Select Another Image)] 画面」を参照してください。
仮想マシン属性 (Virtual Machine Attributes)	仮想マシンのバックアップ時の情報を表示します。
仮想マシンファイル (Virtual Machine Files)	仮想マシンのイメージに含まれているファイルを表示します。 メモ: パス全体を参照するには、[名前 (Name)] 列の境界線を右方向にドラッグするか、または行の上にカーソルを置いてツールのヒントを表示します。

フィールド	説明
次へ (Next)	操作が完了したら、[次へ (Next)]をクリックしてウィザードの次の画面に移動します。

[別のイメージの選択 (Select Another Image)]画面

[別のイメージの選択 (Select Another Image)]画面でバックアップイメージを見つけて下部ペインでイメージを選択し、[選択 (Select)]をクリックします。選択したイメージの仮想マシンファイルが[バックアップイメージの選択 (Backup Image Selection)]画面に表示されます。

図 3-3 SCVMM の NetBackup リカバリウィザードの[別のイメージの選択 (Select Another Image)]画面

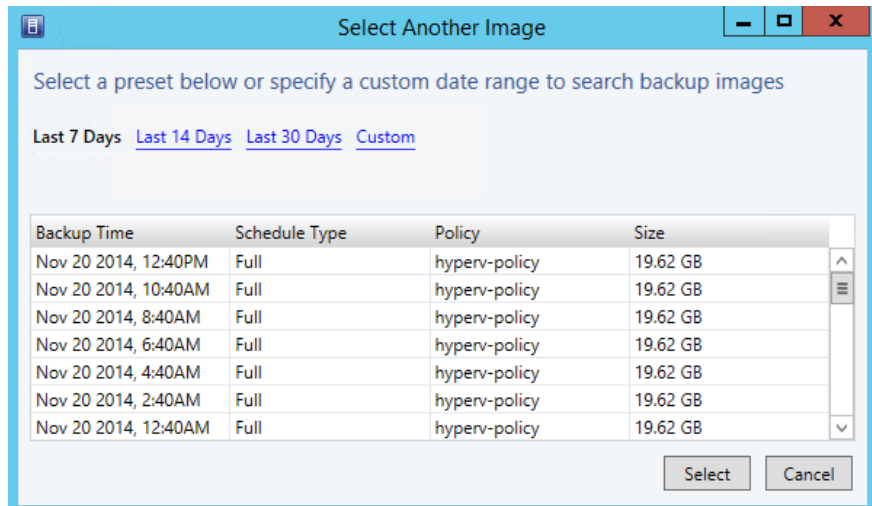


表 3-7 [別のイメージの選択 (Select Another Image)]画面のフィールド

フィールド	説明
過去 7 日間 (Last 7 Days)	先週、過去 2 週間、先月、指定した期間内のいずれかに作成したバックアップイメージを表示します。
過去 14 日間 (Last 14 Days)	[カスタム (Custom)]をクリックして期間を選択します。プルダウン矢印を使って別の日付を選択して[検索 (Search)]をクリックします。検索日付範囲内のイメージが表示されます。
過去 30 日間 (Last 30 Days)	イメージを選択して[選択 (Select)]をクリックします。
Custom	

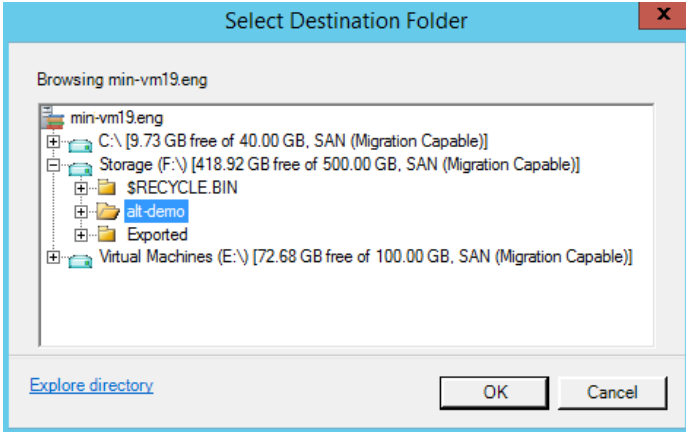
[リストアオプション (Restore Options)] 画面

この画面で、リストアする仮想マシンのリストア先オプションを指定します。

図 3-4 SCVMM の NetBackup リカバリウィザードの [リストアオプション (Restore Options)] 画面

表 3-8 [リストアオプション (Restore Options)] 画面のフィールド

フィールド	説明
リストア先 (Restore Destination)	リストア先の詳細を表示します。
表示名 (Display Name)	リストアする仮想マシンの表示名。
Hyper-V サーバー (Hyper-V server)	仮想マシンをリストアする Hyper-V サーバー。デフォルトは元のサーバーです。 仮想マシンを別の Hyper-V サーバーにリストアするには、[変更 (Change)] をクリックしてプルダウンで異なるサーバーを選択します。 プルダウンリストには SCVMM サーバーが管理する Hyper-V サーバーが表示されます。

フィールド	説明
リストア場所 (Restore Location)	仮想マシンのリストア先ディレクトリ。デフォルトは元のディレクトリです。 別のリストアディレクトリを選択する場合は、[参照 (Browse)]をクリックしてディレクトリを選択します。  メモ: リストア場所として新しいディレクトリを作成する場合は、[リストア先フォルダの選択 (Select Destination Folder)]ダイアログの下部にある[ディレクトリのエクスプローラ (Explore directory)]リンクをクリックします。管理者権限が必要な場合もあります。 メモ: ディレクトリを参照するときに、Microsoft RemoteFileBrowserDialog ウィジェットで、ボリューム文字ではなく GUID を持つダイナミックボリュームが表示される場合があります。継続的に、GUID 識別のボリュームでフォルダを選択することもできます。この問題については、次の Microsoft 社の記事を参照してください。 「Using Dynamic Disks to host virtual machine files in Virtual Machine Manager」
元に戻す (Reset to Original)	リストア場所を元の Hyper-V サーバーと元のディレクトリに戻します。
リストアオプション (Restore Options)	リストアオプションを表示します。
既存のファイルの上書き (Overwrite existing files)	同じ表示名を持つ仮想マシンが宛先にある場合、リストアが始まる前にその仮想マシンを削除する必要があります。それ以外の場合、リストアは失敗します。 既存の仮想マシンを削除する場合はこのオプションを選択します。

フィールド	説明
次へ (Next)	操作が完了したら、[次へ (Next)]をクリックしてウィザードの次の画面に移動します。

[設定の確認 (Review Settings)]画面

この画面で、リカバリに使う設定を確認してリカバリを開始します。

図 3-5 SCVMM の NetBackup リカバリウィザードの [設定の確認 (Review Settings)]画面

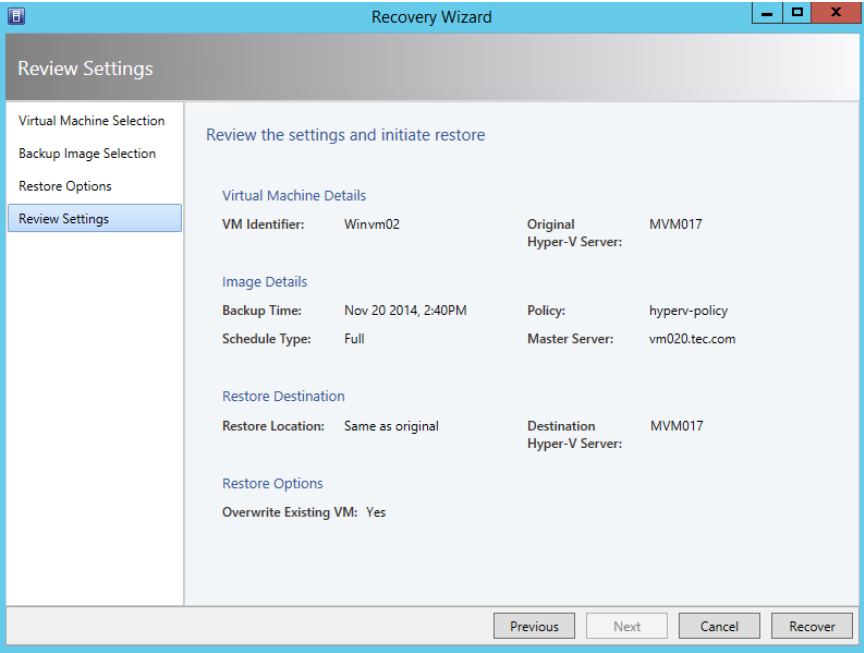


表 3-9 [設定の確認 (Review Settings)]画面のフィールド

フィールド	説明
仮想マシンの詳細 (Virtual Machine Details)	リストアするように選択した仮想マシンの詳細を表示します。
イメージの詳細 (Image Details)	仮想マシンのリストア元バックアップイメージの詳細を表示します。

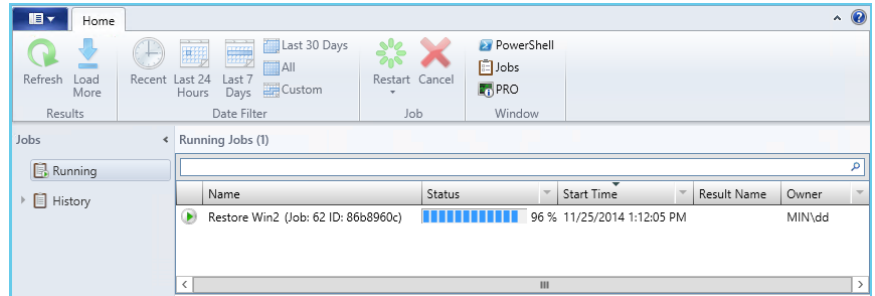
フィールド	説明
リストア先 (Restore Destination)	リストア先の詳細を表示します。
リストアオプション (Restore Options)	リストアオプションを表示します。
リカバリ (Recover)	リカバリ前チェックを実行して、対象を検証します。チェックが正常に完了すると、リカバリが開始されます。 [リカバリ (Recover)]をクリックすると、ポップアップにリカバリジョブのジョブ ID が表示されます。次のトピックではリカバリの状態を調べる方法を説明します。 p.42 の「リカバリジョブの状態を調べる」を参照してください。 メモ: VM の変更が SCVMM ではなく Hyper-V マネージャを介して最近実行された場合は、リカバリ前チェックで VM について最新ではない情報が発生する場合があります。 p.48 の「NetBackup アドインリカバリウィザードのリカバリ前検査で VM に関する古い情報が返される」を参照してください。

リカバリジョブの状態を調べる

進行中のリカバリジョブの状態を調べることも、すべてのリカバリジョブの履歴を表示することもできます。

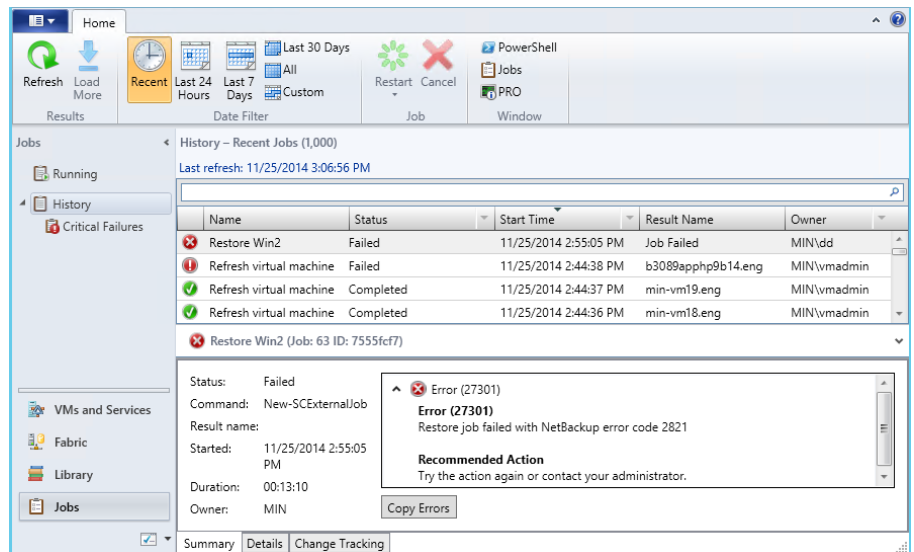
リカバリジョブの状態を調べるには

- 1 SCVMM コンソールで、[ジョブ (Jobs)]ワークスペースを開きます。
- 2 進行中のジョブの場合は、[実行中 (Running)]をクリックします。



[状態 (Status)]列にジョブの完了率が表示されます。

- 3 最近のジョブと過去のジョブを表示する場合は、[履歴 (History)]をクリックします。



進行中のジョブすべての[状態 (Status)]列に、[完了 (Completed)]または[失敗 (Failed)]の状態が示されます。

NetBackup マスターサーバーが切断された場合やリカバリ中に停止した場合は、[状態 (Status)]列が次のように更新されます。

Failed - Lost connection with NetBackup Master Server.

注意: 列ヘッダーをクリックするとリストの順序を変更できます。

注意: [再起動 (**R**estart)]ボタンと[キャンセル (**C**ancel)]ボタンは利用できないのでグレー表示されます。

トラブルシューティング

この章では以下の項目について説明しています。

- [SCVMM 対応 NetBackup アドインのログについて](#)
- [SCVMM 対応 NetBackup アドインのログメッセージの表示](#)
- [SCVMM 対応 NetBackup アドインのログレベルの変更](#)
- [NetBackup アドインリカバリウィザードのリカバリ前検査で VM に関する古い情報が返される](#)

SCVMM 対応 NetBackup アドインのログについて

SCVMM 対応 NetBackup アドインは、次の活動をログメッセージとして記録します。

- NetBackup アドインによる VM のリストア。
- NetBackup アドインからの NetBackup マスターサーバーの追加または削除。

表 4-1 SCVMM 対応 NetBackup アドインのログ

ログの詳細	説明
ログメッセージ形式	yyyy-mm-dd hh:mm:ss,ms [pid] message 次に例を示します。 2014-09-24 14:57:32,408 [1] INFO - Loading SCVMMAddin
ログレベル	複数のログ記録レベル (詳細度) があります。 p.48 の「SCVMM 対応 NetBackup アドインのログレベルの変更」 を参照してください。

ログの詳細	説明
ログの場所	ログの場所は SCVMM のインストール場所とログオンユーザーによって異なります。 次に、ユーザー JDoe のログ先の例を示します。 C:\Program Files\Microsoft System Center 2012 R2\Virtual Machine Manager\Bin\AddInPipeline\AddIns\JDoe\SymcNBUAddIn\Logs p.46 の「SCVMM 対応 NetBackup アドインのログメッセージの表示」を参照してください。
ログの保持期間	すべてのログメッセージは 24 時間同じログファイルに書き込まれます。各ログファイルは 7 日間保有され、その後、自動的に削除されます。

SCVMM 対応 NetBackup アドインのログメッセージの表示

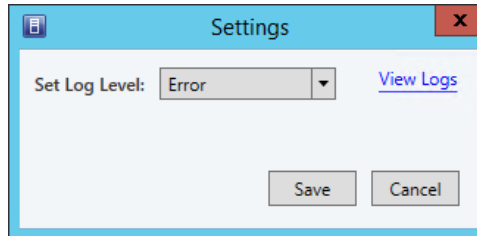
メモ: ログファイルは **7 日間**保有され、その後自動的に削除されます。

メモ: NetBackup アドインに対して **24 時間**ログ活動が発生しなければ、ログファイルは作成されません。

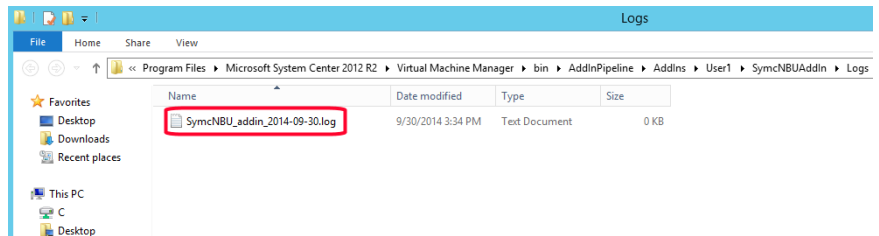
SCVMM 対応 NetBackup アドインのログメッセージを表示する方法

- 1 SCVMM コンソールで、[VM とサービス (VMs and Services)]ワークスペースを開きます。
- 2 [すべてのホスト (All Hosts)]をクリックします。
- 3 SCVMM リボンで、[NetBackup]オプションをクリックします。
- 4 [設定]をクリックします。

- 5 [ログの表示 (View Logs)]をクリックします。



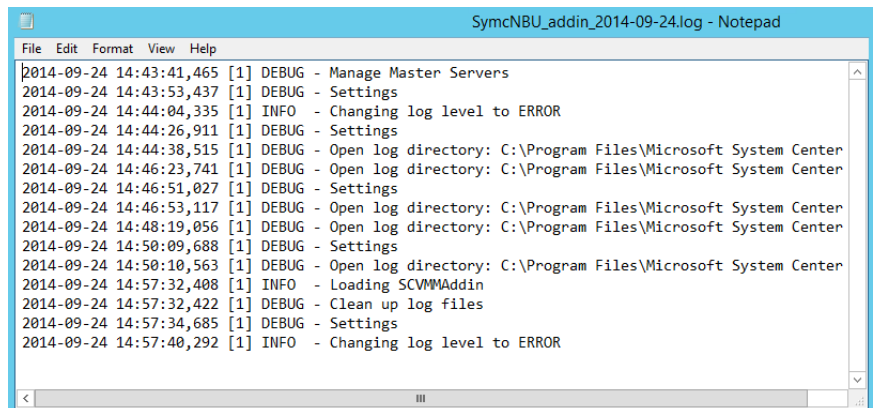
次のようなログファイルが表示されます。



メモ: ログは NetBackup アドインをインストールしたディレクトリに書き込まれます。

- 6 ログファイルをダブルクリックします。

次のようなログファイルが開きます。

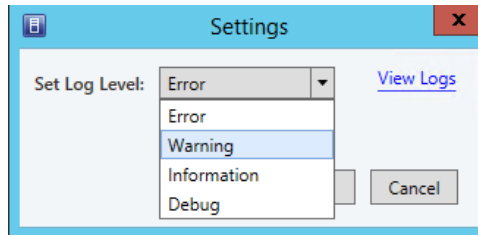


- 7 終了したら、[ログ (Logs)]ウィンドウを閉じ、[キャンセル (Cancel)]をクリックします。

SCVMM 対応 NetBackup アドインのログレベルの変更

ログレベルを変更する方法

- 1 SCVMM コンソールで、[VM とサービス (VMs and Services)]ワークスペースを開きます。
- 2 [すべてのホスト (All Hosts)]をクリックします。
- 3 SCVMM コンソールリボンの[NetBackup]オプションをクリックします。
- 4 [設定]をクリックします。
- 5 [ログレベルの設定 (Set Log Level)]を使って、別のレベルを選択します。



デフォルトでは、ログは最小詳細レベル (エラーレベル) に設定されます。利用可能なレベルは次のとおりです。

エラー	デフォルトレベル。
警告 (Warning)	エラーメッセージを含みます。
情報	警告およびエラーメッセージを含みます。
= デバッグ	情報、警告、およびエラーメッセージを含みます。最高詳細レベルです。

- 6 [保存 (Save)]をクリックします。

NetBackup アドインリカバリウィザードのリカバリ前検査で VM に関する古い情報が返される

アドインリカバリウィザードの[設定の確認 (Review Settings)]画面の[リカバリ (Recover)]をクリックすると、選択内容とリカバリ対象を検証するためのリカバリ前検査がウィザードで実行されます。ただし、SCVMM ではなく、Hyper-V マネージャを介して最近 VM に変更が加えられた場合は、リカバリ前検査で、その VM に関する古い情報が提供される場合があります。個別の Hyper-V ホストまたはクラスターで Hyper-V マネージャを通して適

用された変更が SCVMM に反映されるまで、最大で 24 時間かかる場合があります。この遅延は、Microsoft SCVMM の更新サイクルが原因で、NetBackup アドインはこれを制御しません。

たとえば、VM が Hyper-V マネージャを通して最近削除された場合は、この削除が SCVMM にまだ反映されていない可能性があります。この場合は、アドインのリカバリ前検査で、VM がまだ残っている状態がレポートされます。次のメッセージが表示されます。

同じ ID を持つ仮想マシンが <ホスト名> にあり、上書きオプションが選択されていませんでした。(A virtual machine with the same identity exists on <host> and the overwrite option was not selected.) リストアオプションを確認して、上書きを選択して続行してください。(Please review restore options and select overwrite to continue.)

VM をリカバリするには、ウィザードの[リストアオプション (Restore Options)]画面に戻り、[既存の仮想マシンの上書き (Overwrite existing virtual machine)]を選択してリカバリを再実行します。

メモ: Microsoft 社は、SCVMM 環境では、VM 設定の変更を (個別のホストまたはクラスタの Hyper-V マネージャからではなく) SCVMM を通して行うことを推奨しています。SCVMM コンソールから行われた変更は、SCVMM ですぐに反映されます。この方法では、アドインのリカバリ前検査に VM の現在の状態が反映されます。
